障害者用のトイレの配慮の乏しさ

当 HP の「『サービス介助士』って、ご存じでしたか？」を見た幾人かのメル友から、同様な配慮のなさとして障害者用のトイレ利用時の不便さの情報をいただいた。

トイレはプライバシー保護の工夫はされているが、時にそのために不便とか。外からボタンを押して自動扉が開く。中に入ってボタンを押すと自動扉が閉まり、ロックがかかる。同伴者が同姓でない場合、同伴者は中のボタンを押して自動扉の閉まるのと競争でさっと外に出て待つ訳。

ここで問題！ボタンを押せない障害者は、中からどうしてボタンを押して自動扉を開くか？プライバシー保護のため、中のボタンを押さないと扉は外のボタンを押しても開きません！ 答え：ここのトイレは使えません！

次の問題。上のような完備？されたトイレでない場合、用を済ませた障害者が外で待つ同伴者を呼ぼうとしても、ビルの周りのうるささで、外の同伴者の耳に通じず。さて、どうします？　答え：扉をほんの少し開けて、同伴者は耳をそば立てるしかない。プライバシー保護は、いずこへ？

さらに問題。知的障害者やかなりの高齢者がトイレの中からロックをかけてしまった。外から大声でロックを外すように言っても通じず。答え：そのビルの防災センターに連絡するしかない。

障害者用トイレには、コールボタンがあるはずという人がいるでしょう。ここで問題。では、あのコールボタンはどこに通じているか？答え：外で待つ同伴者用ではなく、防災センター。

これらは想像の話でなく、実際にあった話！

街のバリアフリー化、障害者用トイレ、プライバシー保護、等々、いずれも大事なこと！でも現実は、こんなにも障害者や同伴者は実際には不便し、気遣いの状況。

どうして、こう配慮の足りない構造・設備になってしまうのでしょうかね。

何事も、日常生活で最も不自由してる方の視点から考えれば、構造・設備の工夫の想像がつくと思うのですがね。

折角作るなら、障害者、高齢者が一人でも多く利用し易い方がいいと思うけどなあ。

その道のプロって、どこの、誰のアドバイスを聞いて作っているのでしょうかねェ〜。不思議な話……。

（2004 年 07 月 29 日　記）